

咀嚼(そしゃく)する言葉

今の世の中、人々はマスメディアに大きな影響を受けているのを感じます。先日テレビで「テレビの毒」ということで討論が行われていました。それを聞いていて、視聴率をあげるために人の肉を触発するようなことをしていることを思いました。最近ではボクシングの「亀田親子」のことで、昼も夜も一日中、あらゆる局で同じことが放映されています。しかし、その陰で、本当は知らなければいけない大切なことがあまり放映されないということが起きていないかと危惧します。

私たちは、テレビのことはからくりが分かり、ひっかからないようにしようと距離を置いて見ることができます。しかし、自分たちの身近で起きることについては、見えなくなってしまうという傾向にあります。そしてどうでもいいことに時間をとり、一番大事なことができないようにされていると思いました。今何が起きているのか、その真実を見分けることをしなかったら、いつまでたっても本当の自由は来ない。

聞かなくていい言葉と、聞いて心にとめて思い巡らし、味わい、咀嚼する言葉との違いがあると思いました。聞かなくてよい言葉を咀嚼してしまうと、身体に毒が回り、身体をむしばんでいく。食べる前に吟味することがとても大事だと思いました。見た目においしくおいがよくて、咀嚼し、飲み込んでいいものとは限りません。まず口に入れる前に、吟味が必要です。

このために、いのちの言葉である聖書を読み、書き写すことだと思いました。10月に入ってから、私は激しく「いのちの言葉」に渴き出しました。

「奥義が聞きたい」という渴きです。

ピーター先生、美津子さんからはその言葉を聞くことができますのですが、自分の内側から聞きたいという激しい渴きでした。それはまた、自分の口から奥義を語りたいという渴きです。

尊いのは、愛によって働く信仰だけである。

(ガラテヤ 5:6)

この信仰の言葉に渴いたのです。

ソムリエといって、ワインの味を見分ける職業があります。混乱と暗闇のこの世にあって、私たちはソムリエのように、日々、極上のワインを飲み舌をこやしていかなくては、吟味できる舌が育っていきません。食べなくていいものを食べ、飲まなくてもいいものを飲んでしまう。ましてさんびの民として呼ばれた者は、その言葉を人に食べさせるのですから、責任は重大です。ソムリエ以上の訓練が必要だと思いました。

私はどうしたらいいのかと真剣に祈りました。このことを祈り求めている間にも、このことから目をそらせようと、どうでもいい話や話題、もう分かりきっているようなことを話しかけるなど、横道に離れさせようとする力も感じます。そのような雑草をかきわけながら、大事な大事ないのちの芽をじっと見続けました。この一ヶ月の間に、いくつかヒントになることを神さまは教えてくれました。

私は昨日、チャイルドのみ言葉クラスの担当でした。一人の女の子が、今日はみ言葉クラスに出たいと言い「クリスマスのところか、四つの生き物のところを読みたい」と言ったので、急遽、用意していたものを変更しました。「クリスマスのところを今日は読むから」と

いうと、その子は喜び、「あんな、うちのお父ちゃん、毎日クリスマスの聖書箇所読んでいるねん。そして、いやされるって言うてる」と言いました。それで応答歌の「大きなよるこび」をしました。一度この箇所を読み、そして、一緒にさんびして行きました。途中でこの子が、「あー、ここにお父ちゃん連れてきたらよかった」としみじみ言うのです。この子は、いやされることを願っているのだと思いました。応答歌をさんびしている時に、ここにいやしがあることを、この子は直感したのだと思えます。

また数日前に、私は岡山でのさんび練習に向けて、応答歌の「時の満ちるにおよんで()」のソロの部分を実践して行きました。歌いにくいところがあったために、何度も何度も練習して行くうちに、このみ言葉が私のからだの中に入り、受肉したのでしょう。数日後、私はそのみ言葉の奥義を自分の言葉で語っていることに気がついて驚きました。語ることで、はじめて、私の内側にあった「奥義を語りたい」という渴きがいやされたのです。

応答歌のすごさを知っていたけれど、想像を絶するほどのものがこの応答歌にあると思いました。神さまが子羊の群れに奥義を示して下さり、働き人、リーダー、群れに集っている人たちが神の奥義を語れるようにとすでに「応答歌」を与えて下さっていたとしか思えないのです。私はさんび練習では、応答歌のソロの部分と共にさんびし、さらにこのみ言葉を荒野聖研風に共に考えて行きました。そうやっていく内に、リーダーの方々から深いいのちの言葉が出てきて感動しました。深い真理を語ってくれていました。そして、全く初めて来た方が、「なんて清らかなのしょう」と喜ばれたのです。

芦屋教会の第一礼拝では必ず応答歌がされます。これはその時に必要な霊の栄養、神の奥義が応答歌によって啓示されているのだと思いました。だから、一ヶ月かけてこの応答歌をさんびし続ける時、その月にこの世で起きる全ての問題の解決がこの応答歌にあると言っても過言ではないと思いました。ここに帰りさえしたらいいと思いました。

様々な情報や出来事があります。自分が反応しやすいところや話題性のあるところに私たちは飛びついていきます。そして、論議します。でも、もっとも考えなければいけないことは隠されていると思いました。その隠されているものを見つけ、光にさらす働きを私たちは託されていると思えます。そして、それが月のはじめの応答歌にあるのではないかと思いました。

そして、もしたとえ要らないもの、余計な言葉を咀嚼して、身体に毒がまわったとしても、それをすぐに出してしまうほどのパワーが応答歌にあるように私は思いました。

神が御言のために門を開いて下さって、わたしたちがキリストの奥義を語れるように(わたしは、実は、そのために獄につながれているのである)また、わたしが語るべきことをはっきりと語れるように、祈ってほしい。
(コロサイ 4:3-4)

2007年10月29日

阿部 明子